

政策評価書（要旨） （事前の事業評価）

事業名	新戦車の取得	担当部局	防衛政策局防衛計画課
政策体系	防衛装備品整備	実施時期	平成21年10月

事業の内容 現有戦車の後継として戦車部隊に装備し、対機甲戦闘・機動打撃及び特殊部隊攻撃対処等に使用する。平成22年度に整備に着手し、平成23年度に16両を取得する。	22'	23'	24'	25'	26'	完了年度
	▽調達 ←→ ▽取得					
所要経費 約157億円(22年度概算要求額。後年度負担額を含む。)						経費総額
						約157億円

評価の内容 事業の目的 将来戦においては、充実したC4I機能、対象戦車を撃破できる火力、高い機動性等が必要になるが、現有戦車ではこれらの必要性を満たすことができず、将来戦に対応できない。このため、将来戦に対応し得る質を有した新戦車を整備する。	事業実施の効果・時期 1 事業実施の効果 車内及び近傍の戦車と相互に情報を共有できる能力や、基幹連隊指揮統制システムとの接続、対象戦車等を確実に撃破できる火力、戦略機動性及び戦術機動性、総合的な防護力を有する新戦車を開発することにより、有事における対機甲戦闘・機動打撃能力、特殊部隊攻撃対処能力の飛躍的な向上が期待されるとともに、民生品の活用等による取得単価の抑制等によって、ライフサイクルコストの抑制が可能となる。 2 事業実施の時期 平成22年度に16両調達し、平成23年度に取得する予定である。
事業の必要性・適正性 現有の74式戦車及び90式戦車は、将来戦に必要となる高度なC4I機能を一部限定的にしか付加できず、新たな戦車に必要な機能・性能を得られないことから不相当である。一方で、代替手段の候補としては、海外からの導入又は90式戦車の改修が考えられるが、海外の同種装備については、戦闘に必要な情報を共有し火力と機動力を指揮統制できる能力、日本の錯雑した国土地形に適応しうる機動力、直接防護力及び間接防護力を総合した防護力を有し、かつ機動的な輸送に適した小型軽量化という、新戦車の装備化において目標としている水準を満足しない。 また、90式戦車の改修についても、重量の点で新戦車の目標とする水準を満足せず、また、C4I機能の追加等の改修により全体の経費が上昇するなど、効率的であるとは言えない。 加えて、74式戦車が老朽化する中、計画的に現有戦車の後継装備を取得していく必要がある。 以上のことから、各種任務に必要な性能を満足する新戦車が必要である。	

今後の対応 新戦車の整備は、本格的な侵攻事態や特殊部隊攻撃等の対処に効果が得られると評価できることから、平成22年度に所要の概算要求を実施する。	その他の参考情報 74式戦車：昭和49年度から平成元年度まで調達 90式戦車：平成2年度から平成21年度まで調達
--	---